令和８年度環境保全計画書

イオンリテール株式会社

① 環境保全に関する基本方針(基本理念)

環境指針

私たちは、お客さまへの安心・安全な店舗、商品、サービスの提供を通じて、豊かな暮らしと地球環境保全の両立に取り組みます。取り組みの推進にあたっては、環境マネジメントシステムを運用し、定期的な見直しを行い、継続的に改善を進めます。

１、　私たちは低炭素社会実現のため、全ての事業活動における温室効果ガスの排出削減に取り組みます。

（１）店舗におけるエネルギー効率を継続的に改善します。

（２）商品のサプライチェーン全体で削減に取り組みます。

２、　私たちは事業活動を通じた生態系への環境と恩恵を把握し、保全活動を推進します。

（１）持続可能に配慮し資源管理された商品開発・調達に取り組みます。

（２）植樹・育樹活動等を推進し、地域の生態系を守り育む活動に取り組みます。

３、　私たちは、持続可能な資源利用のために省資源、資源循環に取り組みます。

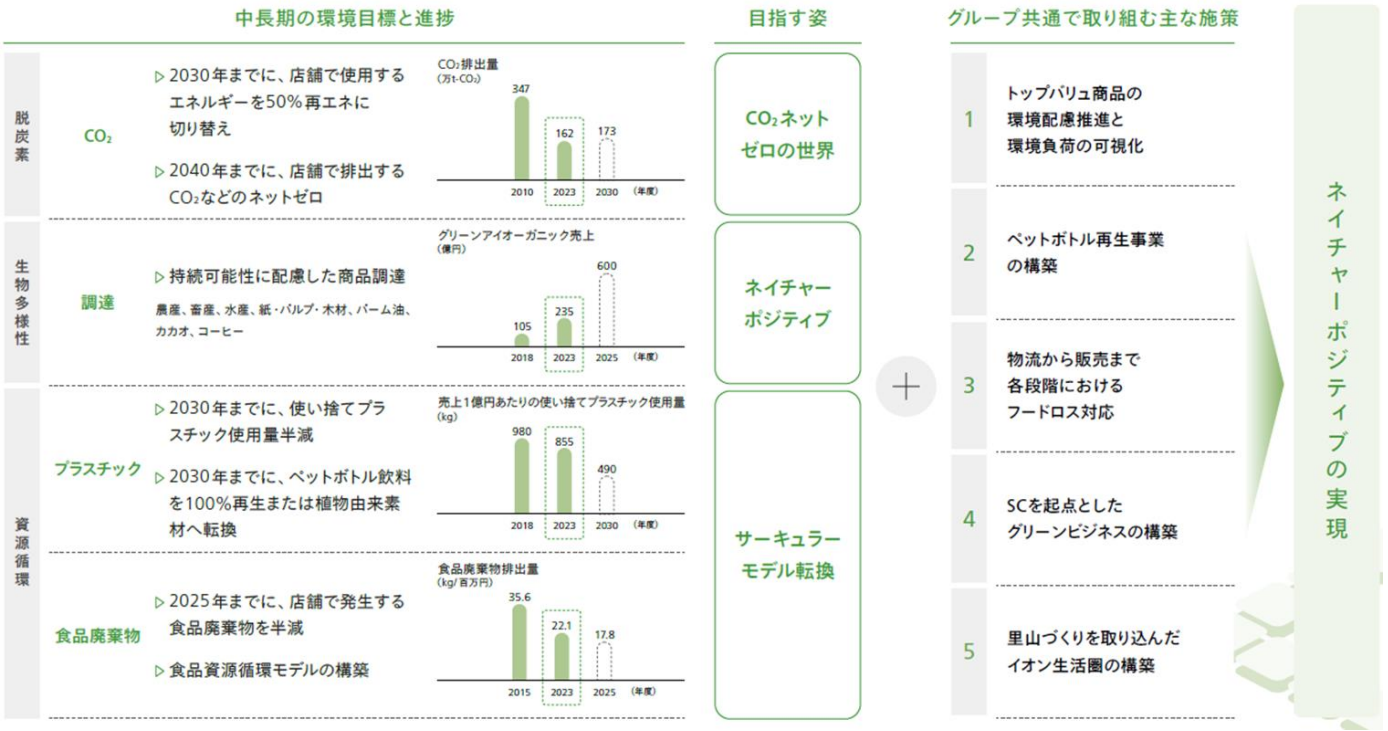
（１）資源のリデュース・リユース・リサイクルを推進します。

（２）環境負荷の少ない原料・資材等を選択するよう努めます。

４、私たちは環境側面に関わる法規制等を遵守し、汚染の予防に努めます。また、本指針を従業員及び当社の事業活動を支えるすべての人々に周知するとともに、広く公開します。

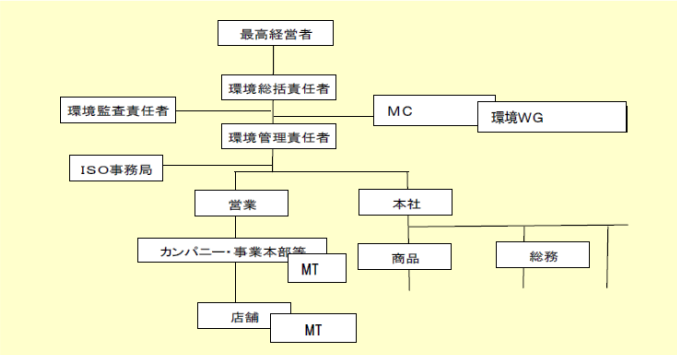
私たちは、お客さまをはじめとする多くの方々とパートナーシップを築き、取り組みの輪を広げていきます。

イオンの事業活動の多くは自然資本に依存・負荷を与えており、生物多様性の損失は大きな事業リスクと認識しています。お客さまへサステナブルな暮らしを提案する役割を担いながら、サーキュラーエコノミー、カーボンニュートラルを含む統合的なアプローチを通じてネイチャーポジティブな経済へと導くことを目指し、グループを挙げて取り組んでいます。



② 環境保全に関する組織の現況

ＥＭＳ運営組織
当社のＥＭＳの運営にあたり、全社の環境管理組織を以下のように定める。



③重点取組目標・計画

【2026 年度の重点目標・計画】

●店舗ＧＸスコアの向上

目標：ＧＸスコア 60 点目標。

取組み計画：資源回収など重点項目の改善を重点目標に設定し月度で進捗管理。

店舗 GX スコアとは：
店舗ごとの環境に関する活動をスコア化したものです。項目ごとに具体的な取組と指標が明示されており、それぞれに設定された達成水準をクリアすると、ポイントが加算される仕組みです。

●プラ製店舗資材使用重量の削減　昨年より 1.5%改善

資材発注精度の向上。必要在庫数の確認。

●省エネルギーの推進

目標：昨年度対比電気使用量 0.5%改善。省エネ投資で 0.5%改善。

取組み計画：

ＬＥＤ照明器具へ更新、冷ケースの更新など省エネ機器のエネルギー効率の良い設備の導入を行う。

最適で効率の良い空調運転の実施。省エネチェックリストに基づく機器運用の改善。

自社の「エネルギーアドバイザー」の育成を継続して推進し、委託業者に任せることなく運用改善をしていける体制を維持。それにより夏季の空調・冷ケースの運用状況を見直し、より効率化を図ります。

④ 公害防止対策に係る計画

ア.　目標及び管理目標値

	目　　標
大気汚染防止対策	「大気汚染防止法」、「大気汚染防止法第 4 条第 1 項の排出基準に関する条例（兵庫県条例）」及び「環境の保全と創造に関する条例（兵庫県条例）」等の法令規定を遵守する。 （別表１、２）に記載するばい煙発生施設からの排出規制に関わる目標値を遵守する。

排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	排水処理施設の定期的な維持管理に努め「排出水の汚濁状態測定計画」、「排出水の汚濁負荷量測定計画」に基づき目標値を遵守する。（別表３）

別表１　　ばい煙発生施設からの排出規制に関わる目標値

店名	施設名	兵庫県環境の保全と創造に関する条例で定める遵守基準		特記事項
		ばいじん（g/N　m3）	窒素酸化物（ppm）	
イオンジェームス山店	360RT 吸収式冷温水 発生器　1号機	０．１以下	150以下	
	360RT 吸収式冷温水 発生器　2号機			
	360RT 吸収式冷温水 発生器　3号機			

別表２
排出ガス中のばい煙濃度等測定計画

	測定項目	測定頻度	測定箇所	測定方法	備考
1	窒素酸化物の濃度及び排出量	年２回	吸収式冷温水発生機（ジェームス山店）	JIS-K-0104 ﾌｪﾉｰﾙｼﾞｽﾎﾙﾝ酸法	
2	ばいじんの濃度	年２回（第１回目測定結果が基準内であれば、年１回）	吸収式冷温水発生機（ジェームス山店）	JISZ-8808 移動採取法	

別表3

排出水の基準	水素イオン濃度		生物化学的酸素要求量		浮遊物質量		ノルマルヘキサン	
店舗名	基準値From	基準値To	基準値From	基準値To	基準値From	基準値To	基準値From	基準値To
ジェームス山	5	9	0	600	0	600	0	30
つくしが丘								
垂水								
神戸南（新店）								
umie（新店）								
神戸北	5.8	8.6	0	160	0	200		

排出水の基準	水素イオン濃度		生物化学的酸素要求量		浮遊物質量		ノルマルヘキサン	
店舗名	基準値From	基準値To	基準値From	基準値To	基準値From	基準値To	基準値From	基準値To
藤原台	5	9	0	600	0	600	0	30

イ. 目標達成のために講ずる措置・対策

○目標達成のために講ずる措置・対策（その 1）

	分野	項目	細目	目標
1	事業所等での節電・エネルギー使用量の削減	節電	基本照明のＬＥＤ化	全店で実施済
			駐車場照明のＬＥＤ化	直営部分完了
			後方照明のＬＥＤ化	全店で実施済
			開店・閉店時の空調起動の適正化	徹底
			平日・夜間のエレベーター運転台数の削減	徹底
		省エネ	冷暖房の適正化	夏季２６～２８度 冬季１８～２０度
			空調機・ＦＣＵ等のフィルター清掃	年間３回以上
			冷ケース内の適正な商品陳列の整備	実施率１００％
			冷ケースの温度設定の適正化	実施率１００％
			冷ケースカバ―の閉店後実施	実施率１００％
		省エネ推進体制の整備	省エネチェックリストの確認と実施状況の	月１回と四半期に１回確認
2	特定フロン等使用量の削減	設備更新時に特定フロン非使用設備を導入	―	新規導入時
		特定フロン等使用機器廃棄時の適正処理	―	廃棄時に徹底

⑤ 地球温暖化対策に係る計画

ア. 前年度(2025 年度)の電気・燃料等の使用量及び今年度(2026 年度)使用予定量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	単位発熱量(MJ)	前年度(2025)使用量等	今年度(2026)使用予定量	単位	排出係数	排出量(kg-CO2) 前年度(2025)(実績)	排出量(kg-CO2) 今年度(2026)(予定)
燃料の使用	原料炭	28.9				0.0867		
	一般炭	26.6			kg	0.0906		
	A 重油	39.1			ℓ	0.0693		
	B 重油	40.4			ℓ	0.0705		
	C 重油	41.7			ℓ	0.0716		
	LPG	50.2			kg	0.0598		
	都市ガス	45.0	557,963	557,963	Nm^3	0.0136	707,230	707,230
	その他(廃棄物等)	42.3			kg	0.0762		
電気事業者から供給された電気の使用			19,623,468	19,230,998	kWh	0.340 (kg-CO2/kW	6,671,979	6,538,539
熱供給事業者から供給された熱の利用					MJ			
合計							7,379,209	7,245,769

イ. 基準年度及び前年度の二酸化炭素排出量、今年度の二酸化炭素の排出削減目標(その他温室効果ガスが発生している場合はその排出量、排出削減目標も含む。)

温室効果ガス	排出量 基準年度(年度)	排出量 前年度(2025 年度)	削減目標 今年度(2026 年度)	削減目標 年度	削減率(%) 今年度(2026 年度)	削減率(%) 年度
二酸化炭素		7,379,209	7,245,769		▲1.8%	
メタン						
一酸化二窒素						
HFC						
PFC						
六フッ化硫黄						
合計		7,379,209	7,245,769		▲1.8%	

ウ. 目標達成のために講ずる措置・対策

4 ページ　イ. に準じます。

⑥ 公害防止対策及び地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る計画

公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る目標、計画

（目標達成年次 2026 年度中）

	分野	項目	細目	目標
1	廃棄物の適正処理と減量	省エネ推進	電気使用量の削減	使用量昨対99%
		使い捨てプラスチック削減	プラ製店舗資材使用重量の削減	昨比1.5%改善
		省エネ推進	店舗GXスコアの推進	全店60点以上
2	特定フロン等使用量削減	特定フロン使用機器の適正廃棄	フロン回収の徹底	フロン回収管理票運用徹底
3	従業員教育	ＩＳＯ教育の実施	ＩＳＯ教育の実施	全従業員受講
4	環境管理システムの充実	ＩＳＯ内部監査の実施	ＩＳＯ内部監査の実施	全店舗の内部監査の実施と不備事項の改善完了
5	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	事業所周辺の清掃活動	毎月開催
		チアーズクラブ活動	チアーズクラブの開催	年5回